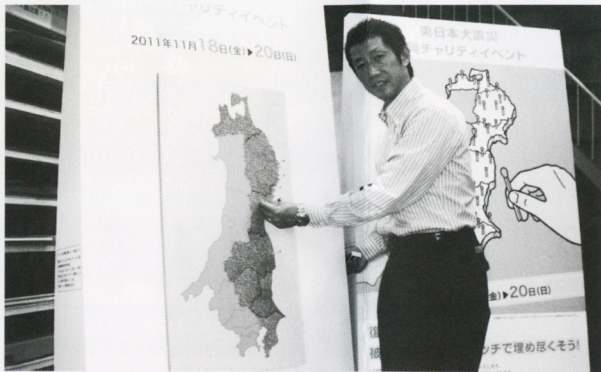


特集

復興願い、マッチ棒で被災地地図づくり バーチャル展示会HYOGO!を通じ 日本燐寸工業会と丸一興業がタッグ

日本燐寸工業会(神戸市)は11月20日に開かれる第1回神戸マラソンの東日本大震災復興支援チャリティイベントとして、「復興を願いながら、被災地地図を緑のマッチで埋め尽くそう!」を開く。マッチ棒を差し込むオブジェは、兵庫県中小企業団体中央会がサイト上で行っている「バーチャル展示会HYOGO!」を通じて知り合った丸一興業(尼崎市)との協業でできたもの。「阪神・淡路大震災の被災地から東北に応援の気持ちを届けたい」と1カ月後に迫った本番に向け、両者とも意気込んでいる。



被災地地図にマッチを差す丸一興業 田中社長

同工業会は、東日本大震災の復興支援を前面に打ち出している神戸マラソンの趣旨に賛同し、チャリティイベント「復興を願いながら、被災地地図を緑のマッチで埋め尽くそう!」の実施を決めた。

あるマッチを広く知ってもらえればと中川新一朗専務理事は思いを込める。被災地をかたどったオブジェの大きさは3メートル×1.5メートル。被災7県の地図部分に10万本分のマッチ棒が差し込めるようになっている。当日会場を訪れたランナーや来場者に寄付を募り、20本のマッチ棒が入ったマッチ箱を手渡し、復興の気持ちを込めて差し込んでいく。東北地方が美しい緑で埋め尽くさ



丸一興業は木箱や段ボールの製作と梱包を行う会社。近年は、100%リサイクル可能な硬質紙ボードを使い、ディスプレイや遊具などを製造する新事業に力を注いでおり、「バーチャル展示会にはエコで軽くて強い素材である硬質紙ボードを広く

認知してもらいたいと考えて出展した」と、田中則彰社長は狙いを話す。6月には宮城県、福島県にある避難所保育園、幼稚園に硬質紙ボードで作ったすべり台60台(写真左)を寄贈し、現地で設置するボランティア活動を行っており、同工業会からの話には二つ返事で承諾した。オブジェはさまざまな硬質紙ボードを取り寄せて調べ、その中からマッチ棒が1本ずつしっかり立つボードと酒パックなどの飲料容器古紙からできた「硬質ミルダン」を使うことにした。

オブジェは、11月18、19日は神戸国際展示場で20日は神戸ポートアイランド市民広場で設置される。寄付金はすべて神戸マラソンフレンドシップバンクを通じて被災地に届けられる。

社団法人日本燐寸工業会
神戸市中央区北長狭通
5-5-12
TEL0783414841

丸一興業株式会社
bolda事業部
兵庫県尼崎市杭瀬北新町
3-2-28
TEL0664870344

